

1 件名

令和7年度タウンミーティング（滝沢市多目的研修センター）（顛末書）

2 日時

令和7年9月21日（日）14時00分～15時30分

3 場所

滝沢市多目的研修センター 研修室1

4 参加者

男性2名 女性1名 計3名

5 市出席者

滝沢市長 武田哲、副市長 岡田洋一

企画総務部長 熊谷和久、企画政策課長 杉村 英久

事務局 企画政策課 木下 智恵子、福井 聡、角掛 遥

計7名

6 内容

（1）開会

（2）あいさつ 滝沢市長

（3）タウンミーティング

・第1部 重点事業の取り組み、トピック説明

「令和7年度市政運営の概要について」市長から説明（～14時40分）

・第2部 テーマについて皆さんとフリートーク

出席者から感想を含め発言を求めた。詳細は別添のとおり。（～15時30分）

（4）閉会

7 第2部のフリートーク内容

（市民）

都市部への一極集中をどうにかしなければならぬと日々思っている。大きな企業の本社を地方へも呼び込む必要があると思っており、国をあげて進めていってほしいと思う。少子高齢化も進んでいき、どうなっていくのかが非常に心配である。

⇒（市長）

市内の大学に通う学生たちに会う機会があるたび、岩手県が置かれている状況を説明しなければと思い、都度話している。1年間に生まれる子供の数は盛岡市が1番多く、次いで北上市、奥州市と続くが、2位以降は500人に満たない。滝沢市にも様々な企業がある。イプシロンロケット、宮城県のナノテラスをつくる際、建設費の中で12億円ほどが岩手県内企業への発注であったが、ほとんどが滝沢市の企業が請けた。技術力が高い企業

がある。企業の特徴を地元の若い人たちが知らない。もっと若い人たちへ地元企業の魅力をアピールしていきたい。

(市民)

建物が建たないため、企業に仕事がない。しかし無駄なものを建てるわけにもいかない。

⇒ (市長)

将来の需要予測をたてながら考えていかなければならない。例えば、滝沢消防署は、老朽化や女性消防隊員への対応のために建て替え予定である。今年度は、公共施設の在り方について見直しながら着手し、将来の費用について算出していく予定である。皆さんが一番不安なのは岩手山の噴火だと思っている。しかし避難所にエアコンがない。また、小中学校のエアコンも拡充していきたいと思う。

(市民)

限られた財源の中でどこを重点的に行っていくのかは市が考えることだと思うが、市民としては、生活が厳しい人もいるので、本当に大切な事業を見極め、有意義に使ってほしいと思っている。

⇒ (市長)

雪対策協議会の要望活動で、冬場に道路の割れを下から改修できる工事をとってきた。除雪を請け負ってくれる企業へ補助メニューを使いながら確実に仕事を出せるように支援したい。1月に盛岡市で鳥インフルエンザが発生した際、土を掘るための事業者が見つからなかった。東日本大震災のあと、復興事業がなくなり、建設業の社員も車両も減っている。

⇒ (市民)

昨年の倒産率は岩手県が全国でワースト1位である。震災のときに重機を借金して購入したが仕事がなく、倒産していく企業が多い。

⇒ (市長)

中央から会社を誘致できるよう、様々歩いているが、今回イノベーションセンターへ30社集めることができた。イノベーションパークに土地あります、だけでは人が来ない。電気代が高騰する中、発電に水力が活用できないか考えている。場所、人、電力という3本柱で新たな展開を見せていきたい。

(市民)

林業、農業に強みのある岩手県だからこそ、食品加工業の本社を呼んでほしいと思っている。岩手大学農学部には優秀な人材がいるのに、卒業後に都市部へ流出してしまう。本社を呼び込めれば、人材流出も防げるのでは。県とともに国へ働きかけができればと思う。

⇒ (市長)

輸出米事業に取り組んでいるのは県内では滝沢市と奥州市だけである。世界にアピールしていきたい。令和5年までは10カ国以上に輸出していた。米だけではなく、他の産物もしっかりアピールできる環境づくりをしていきたい。滝沢市の農業生産額で1番多いの

は酪農である。小岩井農場へ出荷している農家が多い。滝沢市の農産物をしっかりとアピールし、地元はもちろん、国内・国外へアピールする環境づくりはあきらめずに行っていきたい。ライスセンター開設もその一環として進めている。産地が元気にならなければ、挑戦する人たちが出てこないと思っている。

⇒（市民）

知人で、ナッツづくりを始めて、新聞などにも取り上げられている人がいる。お金にはならないかもしれないが頑張っていて、そういう新しい発想もいいなと思った。

⇒（市長）

若い人たちの新しい発送は応援していきたいと思っている。ふるさと納税にも出せればと思っている。市内でワイン造りをしている人もいる。人気があり、すぐに売れてしまう。今年は増やすとのことなので、ファンが増えればと思っている。

⇒（市民）

例えば、盛岡市に観光に来た観光客を、リンゴ狩り体験や、ワイン体験をさせたり、お金を落としてもらう工夫ができればと思う。

（市民）

今年11月に民生児童委員の改選がある。4年前までは市から民生児童委員へもらっていた（避難行動要支援者台帳とは別の）支援が必要な市民の情報がもらえなくなった。個人情報というのは理解するが、新規で民生児童委員になる人が活動しづらいと思う。地域福祉課へも要望しているが、進展があるようにはみえない。

⇒（市長）

これまでも要望いただいているということは承知している。本人からの求めがない情報は出すことができない。近年、民生児童委員のなり手も減っており、活動についても時代に合わせた活動になるよう、見直すように進めている。様々改善しながら、法の範囲でどのようなことができるのか考えていきたい。国へも基準を設けてもらいたいということは訴えていきたい。

⇒（副市長）

支援が必要な方と、支援を求める方というのはまた違うと思う。法を順守する立場として、民生員の皆さんも守秘義務は持っているが、本人からの求めがないのに情報を出すことはできない。お話していることは理解できが、その中でどのような情報をどの範囲までお出しできるのかは担当課とも話をしながら考えていきたい。

（市民）

避難行動要支援者台帳は65歳のときに登録した後は更新がないため、5年おきくらいに更新が必要だと思っている。

⇒（副市長）

5年経てば環境の変化もあることと考えている。本人が大丈夫だと仰っても地域の皆様が心配しているケースもあり、地域の方々の働きかけなどで5年後は「登録が必要かな」と思う方もいるかもしれない。更新については考えていきたいと思う。

## 【当日の写真】

### ・ 第 1 部



### ・ 第 2 部

